

2019 年度早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
におけるオリンピック・パラリンピック教育の取り組み：
セミナー及びワークショップを中心に

A report of Olympic & Paralympic Education in WASEDA Research Center
for Olympic & Paralympic Education in 2019:
Focusing on seminar and workshop

深見英一郎¹⁾, 吉永武史¹⁾, 岡田悠佑¹⁾, 劉素雲¹⁾, 木浪龍太郎¹⁾, 青木彩菜¹⁾

¹⁾ 早稲田大学スポーツ科学学術院

Eiichiro Fukami, Takeshi Yoshinaga, Yusuke Okada, Suyun Liu, Ryutaro Kinami, Ayana Aoki
Faculty of Sport Sciences, Waseda University

キーワード: スポーツ庁, オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業,
オリンピック・パラリンピック教育

Key words: JAPAN SPORTS AGENCY, Nationwide Olympic and Paralympic Movement Project,
Olympic & Paralympic Education

【抄録】

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター(WASEDA ROPE: WASEDA Research Center for Olympic & Paralympic Education; 以下, 「早大オリ・パラセンター」)は, スポーツ庁が推進する「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」の委託を受けて2016年7月29日付で発足した。2019年度は, 2018年度までの札幌市, 岩手県, 埼玉県, 横浜市, 岐阜県, 静岡県, 静岡市, 滋賀県, 広島県, 香川県, 熊本県の11地域に, 浜松市, 三重県, 鳥取県, 鹿児島県の4地域を加えた15地域の教育委員会等と連携して事業に取り組んだ。本稿では, 特に授業場面以外の取り組みを中心に記述した。具体的には, セミナー及びワークショップの取り組みについて2018年度の取り組みと比較しながら詳細に紹介した。

組織体制に関しては, 推進地域における大学の連携が見られた。地域セミナーに関しては, グループ討議の増加と「講演体験」という新しい取り組みが見られた。地域ワークショップでは, パラスポーツ体験の内容として障がい者スポーツクラブの参観という新しい取り組みが見られた。さらに, 各推進地域独自の教員研修の取り組みも見られた。そして, これらの取り組みの成果として, 地域セミナー及び地域ワークショップ等で実施したアンケート調査の結果を示した。その結果, オリ・パラ教育推進地域の教員のオリ・パラ教育の重要性に対する認識や実践のための知識等が高まったことが明らかになった。

スポーツ科学研究, 18, 27-38, 2021年, 受付日:2021年1月29日, 受理日:2021年5月6日

連絡先: 深見英一郎 〒359-1192 所沢市三ヶ島 2-579-15 早稲田大学スポーツ科学学術院

eiichiro@waseda.jp